

# FW6 スライス

## スライス機能

web サイトはテキストと画像から構成されています。通常はDW などの編集ソフトでテキストの入力や編集を行い、別々に作成した画像を挿入します。

しかし、その作り方では全体のバランスを取るのが難しく、プロのデザインではFW の様なグラフィックソフトで1 枚のファイルに画像としてページをデザインし、そこから必要な画像を切り分け、それを元にHTML でレイアウトする方法が用いられます。この作業をFW で簡単に出来るようにしたのがスライス機能です。FW で画像中心のページをレイアウトし、スライス機能を使って画像を切り分けると必要な画像に切り分ける他、それをテーブルで配置レイアウトするHTML までFW が自動で記述してくれます。

複雑なレイアウトではコードが複雑になってしまいますが、シンプルなレイアウトであればFW だけでページを作成することも可能です。

## ページ全体のデザイン

1 枚の画像の中に1 ページのレイアウトをデザインします。今回はメインビジュアルとリンクボタンひとつ、そして本文テキストの3 つの要素からなるページをデザインします。

## 新規書類の作成

fw/slice.png を幅 800 高さ 600 キャンバカラー白で作成。これがページになります。

## メインビジュアルの作成

メインビジュアルとなる画像をインターネット上から探し、ペーストします。ページ全体に対し画像が大きく本文領域などが確保できないのでマスクを使って大きさを調整します。

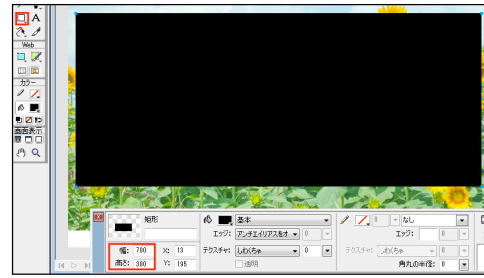
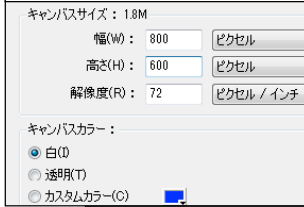
## メインビジュアルをマスク

ここではメインビジュアルのサイズを幅 750、高さ 300 にしたいと思います。

そこでマスク用にオブジェクトを描画します。

## マスク用オブジェクトの作成

指定したサイズで切り抜くためのマスクの領域を矩形ツールで適当に描画し、プロパティインスペクタで750X300 に指定し、キャンバスに合わせ水平方向を中央に揃えます。



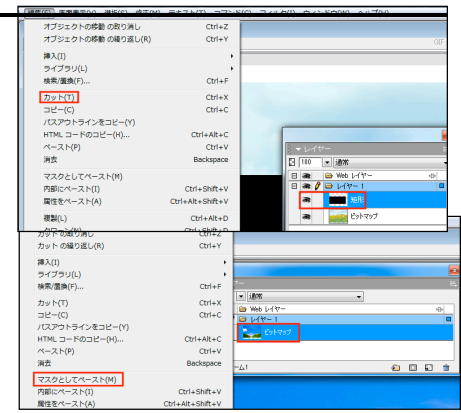
## マスク領域のカットとマスクとしてペースト

カットアンドペーストでオブジェクトをマスクの領域にしてオブジェクトの形状で画像を切り抜くことができます。ペースト時にマスクとしてペーストを選ぶとマスクレイヤーとしてペーストされます。

## レイヤーパネルからレイヤー矩形を選択しカット

## レイヤービットマップを選択しマスクとしてペースト

## メイン画像を置く位置を調整

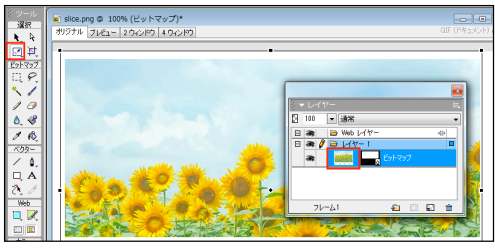


## マスク内でのトリミング

マスク領域に合わせて写真をトリミングします。



## マスクとのリンクアイコンをクリックして外し画像を選択して拡大縮小ツールで変形して大きさを揃えます



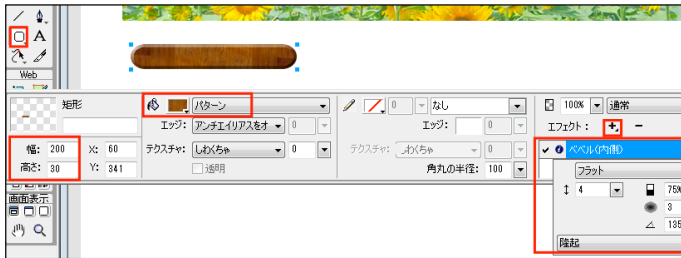
## タイトルを打つ

テキストツールでタイトルを打ってメインビジュアル部分は完成です。今まではこの部分のみを作成していましたが、他のレイアウトもこのファイルの中に作成します。



### 1 ボタンの作成

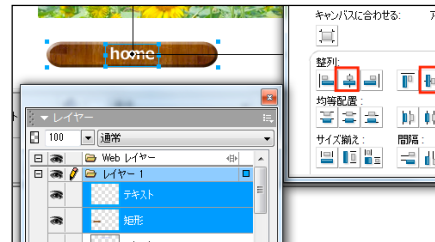
- 2 角丸矩形ツールで適当に描画
- 3 し
- 4 プロパティインスペクタでサイズを 200X30
- 5 パターン塗りを定義
- 6 エフェクトペベル内側で出
- 7 っ張らせる



- 10 テキストを打ち整理させます

### 11 グループ化

- 12 ボタンベースと文字をグループ化して単独で動かないように
- 13 します。
- 14 ボタンベースと文字を shift クリックで選択し修正>グループ



### 16 HTML テキストの作成

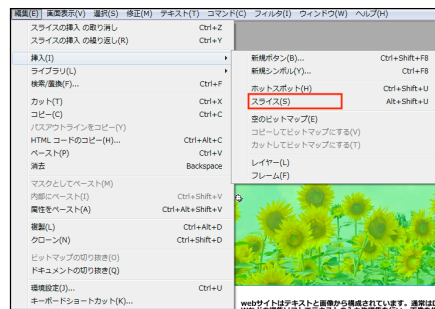
- 17 HTML のテキストで再現する部分を作成します。
- 18 テキストツールでドラッグしテキストボツ
- 19 クスを作成し、その中に文字を打ちます
- 20
- 21 以上でデザインは完成です。保存しておき
- 22 ましょう。



- 23 次にこの画像を切り分けるスライスの設定を行います。

### 24 スライスの挿入

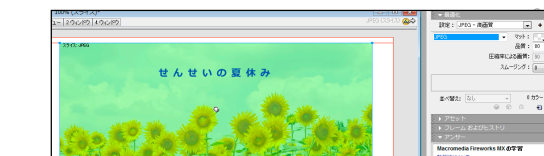
- 25 現在 1 枚の slise.png という画像の中にメインビジュアル/ボ
- 26 タンという 2 つの画像と HTML で組むテキストの部分が作ら
- 27 れています。これらを 1 枚の画像の中から 2 枚の画像へと切
- 28 り分けることをスライスといいます。
- 29 メイン画像の部分を選択し、**編集>挿入>スライス**を選ぶと



スライスの設定  
がされ、赤い線はテーブルの区切りを表します。

赤い枠ごとに別々の書類として書き出されるのでそれぞれに最適化の設定を行いファイル名を付けます。

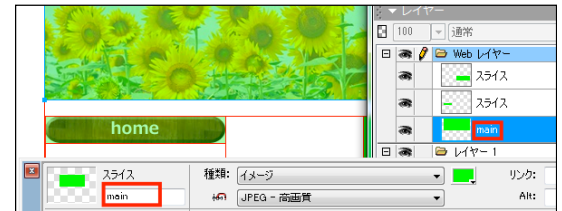
### 1 最適化の設定を行う



スライスされた部分は独立した画像になるので部分ごとに最適化の設定が出来ます。  
ここは写真を中心としたメインビジュアルなので最適化 : jpeg  
で最適化します。

### 7 ファイル名をつける

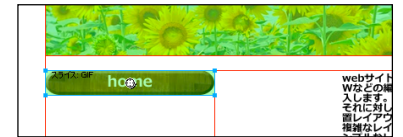
- 8 独立した画像として書き出されるのでファイル
- 9 名が自動で設定されますが、わかりづらいので
- 10 ファイル名をつけるには、プロパティインスペ
- 11 クタのスライスの下もしくはレイヤーパネルより
- 12 名前をつけておきます。



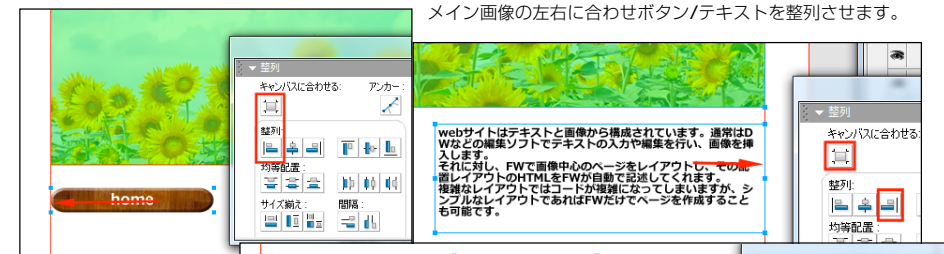
- 13
- 14 ここではmainとつけておくとmain.jpgで書き
- 15 出されます。

### 16 スライスのコツ~整理させる

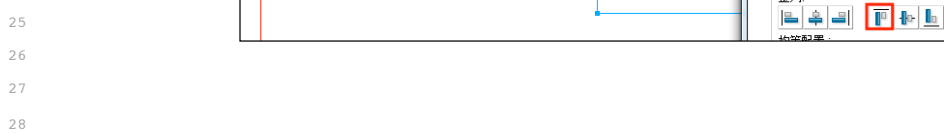
- 17 スライスではテーブルによってレイアウトを再現するので
- 18 だけシンプルなテーブルになるようにレイアウトするのがコツで
- 19 その為に整理をして無駄なズレがないようにします。



メイン画像の左右に合わせボタン/テキストを整理させます。



- 22 ボタンとテキストを
- 23 上に揃えます

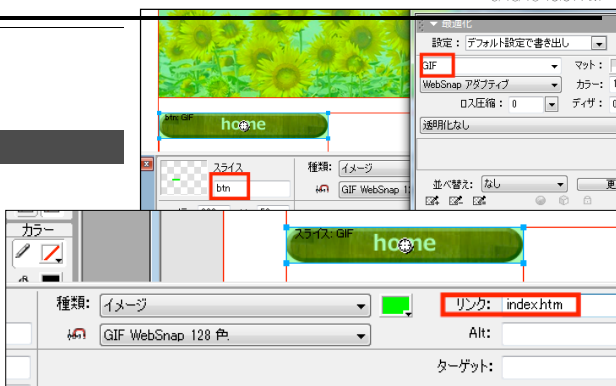


### ボタンをスライスに

ボタンを選択しスライスを挿入します。  
gif で最適化し、btn と名前をつけます。

### リンクの設定

ボタンへはリンクを設定できます。画像を選択し、プロパティインスペクタのリンク：欄にパスを記述します。



### HTML スライス

スライスを画像ではなく空のセルとして生成、セル内は文字を入れることができます。  
テキストをコピーしておきましょう。

### スライスの挿入

スライスを挿入します。

### 種類：HTML にする

初期状態では種類がイメージとなっていて文字部分が画像ファイルとして書き出されてしまいます。  
そこで種類>HTML にします。

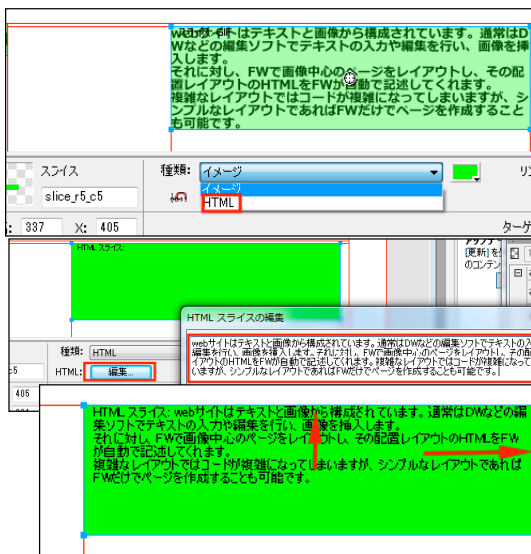
### セル内のテキストをコピーする

空のセルになるのでテキストが見えなくなります。  
プロパティインスペクタの編集ボタンを押すとセルの中を編集するダイアログが開くのでコピーしたテキストをペーストします。

テキストでプレビューされます。

ドラッグして余分なスライスを減らしましょう。

以上で設定は終了なので保存しましょう。



### スライスの書き出し

保存先を site 内にします。

### ファイルの種類

画像のみを書き出すかレイアウトする HTML も書き出すかを選びます。

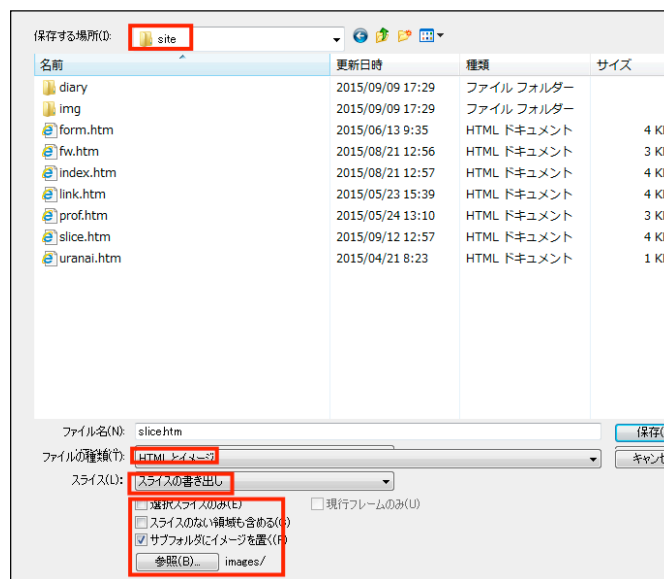
html とイメージで分割した画像と、それをレイアウトする HTML を書き出します。

### スライスのない領域も含める>チェック外す

空白部分を画像として書き出さないでチェックを外します。

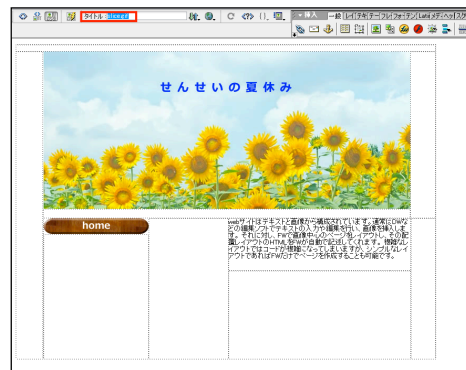
### サブフォルダにイメージを置く>チェック

images というフォルダを作ってその中に画像ファイルを保存するのでファイルが散らかりません。



### 確認

site 内に slice.htm という html ファイルと images フォルダ内に slice.htm をブラウザで開いてみましょう。



DW で開いてどのようなテーブルで作成されているか確認してみましょう。  
タイトルは FW で設定できないので正しいタイトルを付けておきましょう。